



伊賀市立小中学校では、「学力」「人権」「キャリア」を教育活動の柱として取組を展開しています。

学力向上の取組として、1学期、4・5年生は三重県教育委員会が作成した「みえスタディ・チェック」を、6年生は文部科学省が作成した「全国学力・学習状況調査」を受けました。その結果と今後の取組をお伝えします。

1 教科の正答率について

学年 教科	4年生		5年生		6年生			
	本校	三重県	本校	三重県	本校	伊賀市	三重県	全国
国語	△	58.7	△	55.2	▼	67.0	66.1	66.8
算数	△	60.9	△	55.8	▼	59.0	57.1	58.0
理科			△	55.1	▼	58.0	56.0	57.1

※ 学校の数値は公表できることになっていますので、6年生は全国と、4・5

年生は三重県と比較して、ほぼ同じ場合は「-」、上回っている場合は「△」、下回

っている場合は「▼」で表現しています。

2 6年生(全国学力調査)の結果について

6年生の結果をお伝えします。上の表の通り、伊賀市

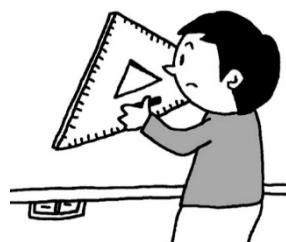
全体では、国語・算数・理科ともに正答率は全国や県を上回

っていますが、本校の正答率は残念ながら、3教科ともに

全国や県よりも低い傾向にあります。ただ、詳しく見てみ

ると、どの項目についても正答率が低いわけではありません。

そこで次に、本校児童の学力に関する傾向を教科別に見ていきましょう。



● 国語では・・・

観点別に見ると、特に、「学習した漢字を正しく使うことができる」「調べたことを基に詳しく書く」「書かれていることを理由にして、まとめて書く」など、知識・技能にかかわる問題の正答率は、全国と比較して高かったです。しかし、「内容を理解し、目的や理由を的確に判断する」といった思考力・判断力等に関する問題の正答率は、全国と比較して低かったです。

● 算数では・・・

全ての観点において正答率が全国を下回る結果でしたが、図形やデータの処理・活用に関する問題については、全国平均に近い正答率でした。特に、実施直前に取り組んだ内容と同系の問題については、全国に比べて正答率が高いことから、理解の定着に課題があると分析できます。

● 理科では・・・

電気回路の仕組みや自然界における水の循環等、高度な理解を要する問題についても正答率は低くないのですが、比較的簡単な問題の正答率が低いといったばらつきが見られます。理科では感覚的な理解ではなく、分析や考察による立証での理解が求められます。身の回りの事象を学習したことと重ねて考え方理解するといった日常の習慣が必要です。

3 4・5年生(みえスタディチェック)の結果について

4年生の国語・算数、5年生の国語・算数・理科と、どの教科においても三重県の正答率を大きく上回る結果でした。昨年度の5年生(現6年生)の結果も三重県を上回り、特に算数においては大きく上回る結果でしたが、今年度の全国学力調査の結果を見ると、どの教科にも課題が見られます。しかも本校ではここ数年、みえスタディチェックの結果は三重県を上回り、全国学力調査の結果においては、全国を下回るといった同様の傾向が見られます。

みえスタディチェックでは、教育課程における各教科の観点を集約し、それに応じた問題が出題されるので、毎年同系の問題になることが多いです。

それに対して全国学力調査では、毎年、求められる力にポイントを置き、問題が作成されるので、同観点の問題であったとしても、全く違う形で出題されるのです。つまり、本校の児童は「やったことはできるが、やっていないことに対しては苦手傾向にある」と言えます。

4 生活習慣・学習習慣と学力の関係について

全国学力調査では、教科の理解力以外に生活習慣や学習習慣についても児童に聞きました。

・本校の6年生は、「人が困っている時は進んで助けている」(98%)「いじめはどんな理由があってもいけないと思う」(99%)「人の役に立つ人間になりたいと思う」(98%)と、昨年に続き、高い数値を示しています。このことから、本校6年生児童の人権意識やキャリア意識といった人間性についての能力はとても高いといえます。

・テレビやコンピュータ、携帯式等のゲーム、またパソコンやスマートフォン等で動画視聴をする時間についての質問はありませんでしたが、「平日の家庭学習の時間が1時間以上」(43%)、「パソコンやタブレットなどを家庭学習に使っている時間が1時間以上」(23%)と、家庭学習に取り組む時間や積極性が、全国や県に比べて低い状況が見受けられます。

・これまでお伝えしてきましたが、学力を身につけるためには、「教えられることではなく、自ら探求すること」として、主体的に学ぶことが求められます。毎日の習慣こそが、確かな学力を育成すると考えられます。

5 ご家庭に協力いただきたいこと

学力向上の取組として、ご家庭の方々には、これまでにもいろいろとご協力をいただいてまいりましたが、家庭学習については、なかなか目に見

えた成果が表れてこないのが現状です。そこでふと思つたことがあるので
すが、日常の学校生活でよく見かけるシーンを2つ紹介しましょう。

子どもが「先生、こんなになります。」と、困ったことを訴えに来たとき、子ども自身はどうして欲しいかを言う前に、教師が先にアドバイスや手助けをしてしまうことがあるのです。これは一見、親切に見えますが、自主性や工夫といった子ども自身の育成を阻んでしまうことになっていないか、ということなのです。ここでは「どうしたらいいと思う?」「先生は何を手伝おう?」といった、共感しながら子ども主体で考えさせる返しが有効です。「自分で考え!」などのあしらいは絶対にNGです。

また、授業中に、わからない友だちに一生懸命教える子どもの姿をよく見かけます。見ていると、わからない子に教えながら、教えている子自身も、自分の中の学びを確認している様子が感じられます。人に教えることが、学力の定着に大いに有効であると言えるのです。

これら2つのことから、日常において、すぐに手助けをしてしまわず「子ども自身で考え工夫させること」、そして家庭学習においては「お子さんに教えてもらうこと」を意識していただいてみてはどうでしょうか。

もちろん、これまでにも協力ををお願いしました

① **基本的な生活習慣** (早寝早起き朝ご飯、時間を守って学校に来る。)

② **家庭学習** (何時~何時までを決めて勉強する。)

③ **読書習慣** (毎日、必ず本を読む。)



これらの取組についても、引き続きお願いします。

なにより「勉強しよう」という雰囲気を、ご家庭の中につくっていただくことが効果的です。人は人から学びます。私たち大人が子どもの見本になるよう心がけながら、お子さんの成長の喜びを、みなさんと共にわかつ合つていきたいと思います。